

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護学生の実習における心理的影響についての文献検討

～実習で得られる有益な効果に着目して～

池田早希 及川礼夏

(指導: 松田奈緒美)

諸言

看護教育における臨地実習(以下実習)は、看護師を目指す学生が必要な知識と技術を習得するために必須の学習であり、看護の役割や多様性、個別性を学ぶ上で重要である。また坂本ら¹⁾が報告するように、実習において満足が得られれば学生は心理的に well-being な影響を受けることが出来る。しかし学生は実習において実際の患者や看護師と接する事や経験したことの無い記録の作成などが困難なイメージがあり、意欲や、主体性、達成感・充実感や自己効力感、看護師志望や看護職意識の高まりといった実習による有益な効果をもたらす要因についてまとめられている報告は少ない。そこで本研究では実習において学生にもたらす有益な効果の要因を明らかにし、学生が実習に前向きに取り組めるようになるための心の準備方法の示唆を得ることを目的とする。

実習が学生へもたらす有益な効果の要因を明らかにすることで、学生は実習の意義を知り、前向きに実習に臨むことができると考える。また実習に対してだけでなく、その後の学習や、卒業後看護職として働くということに対する意欲の向上にも繋がると考える。

用語の定義

有益な効果: 意欲や、主体性、達成感、充実感、自己効力感、看護師になりたいという気持ちの高まりといった学生が実習により得られる前向きな感情

方法

研究対象: 医中誌 web 版を使用し、「学生」、「実習」、「自己効力」をキーワードとし検索すると、371 件ヒットした。また、「学生」、「実習」、「意欲」をキーワードとし検索すると、725 件ヒットした。この中から「ストレス」や「不安」に焦点を当てたものを除き、実習が学生に与える影響について有益な効果に焦点を当てて述べられている 6 つの文献を対象とした。

データ分析方法: グレグら²⁾の方法を参考にする。対象の 6 つの文献を繰り返し読み、「実習が及ぼす有益な効果」を含んだ文脈を抽出する。抽出した文脈を意味内容が変わらないようにコード化し、相違点と共通点に着目してサブカテゴリ化し、さらに抽象度を上げて複数の集まった集団にふさわしい名前を当て、カテゴリ化する。

倫理的配慮: 本研究では先行研究に基づく研究であり、著作権の範囲以内で複写を行い、出典を明示し、その引用方法に留意し、論文中の表記方法に従う。

結果

以下カテゴリを【】、サブカテゴリを〈〉で示す。6 つの文献から 124 のコード、20 のサブカテゴリ、【患者や家族との関わり】【看護師や指導者、教員からの学生を思う実践的な指導】【自己成長や意欲の高まりの実感】【自分自身のコントロールや学生同士によるお互いを高め合う刺激】の 4 のカテゴリが抽出された(表 1 参照)。

考察

抽出されたカテゴリから、実習中に関わる人々による影響や指導を受ける事、自己の意識の変化が看護学生に有益な効果を与える要因になるということがわかった。

1. 実習中に関わる人々による影響

【患者や家族との関わり】で挙げられた〈患者・家族からの感謝の言葉をもたらした〉〈患者が心を開いてくれた〉、【看護師や指導者、教員からの学生を思う実践的な指導】で挙げられた〈看護師や指導者、教員から学生を認める言葉があった〉〈看護師が学生に対して温かみをもって接してくれた〉、【自分自身のコントロールや学生同士によるお互いを高め合う刺激】で挙げられた〈学生同士でモチベーションを高め合うことができた〉など人々との関わりは多く挙げられた。

このことについて桜井ら³⁾は学生は不慣れた病院で様々な人々と関係調整を行いながら、毎日課せられる実習記録にも対応しなければならないという未経験なものへの不安や緊張を抱えていると報告している。また学生は患者や看護者と接することに対して大きな不安や緊張を抱きやすく、小沢ら⁴⁾がコミュニケーションスキルが低い学生は、対人不安の「消極性」「緊張」「過敏さ」「自信のなさ」が強い傾向にあることと関連していると明らかにしているように、対人不安はコミュニケーションにも大きく影響を及ぼす。このように不安や緊張を抱えている際に、患者や看護師が学生を受け入れ温かく接してくれることにより緊張が緩和される。さらに学生の学習を応援してくれているということを学生が実感できると、安心して学習を進めていくことがで

き、有益な効果を得ることに繋がると考えられる。また自分一人だけで抱え込むのではなく、同じ状況である学生同士で様々な気持ちを共有することも、お互いに高め合うことに繋がり、有益な効果を得るために有効な方法であると言える。同じ状況の学生同士で励まし合ったり、一緒に学習することにより、みんなが頑張っているから自分も頑張ろうというように、意欲の向上に繋がると考える。そして〈自分の行動を工夫することで患者の役に立った〉などから、自分の行動により患者を良い方向に変えることができた実感することが、達成感や看護のやりがい、充実感の獲得に繋がると考えられる。

以上のように人々との関わりの中で、患者や看護師が温かく接してくれること、学生同士で気持ちを共有すること、患者が良い方向に変化することを実感することで学生は安心感や意欲の向上といった有益な効果を感じると考える。

2. 看護師からの指導

【看護師や指導者、教員からの学生を思う実践的な指導】から、学生は看護師からの具体的な指導を受けることや、看護師の姿を見ることにより学びを習得しており、実習における充実感や意欲を向上させることができると考えられる。また村岡ら⁵⁾は学生は実習中に教員に自分自身を認めてもらえること、学生が困っているときに助けてもらえたことが、実習中の満足度に影響していると明らかにしている。これらのことから、看護師や教員から十分に指導を受ける機会があること、指導により実習における疑問を解決できると感じることで、有益な効果が得られると考える。

3. 自己の意識の変化

【自分自身のコントロールや学生同士によるお互いを高め合う刺激】から、自分の成長や意欲の向上を実感できることにより、さらなる意欲の向上や、充実感、看護師になりたいという気持ちを向上させることに繋がると考えられる。土井ら⁶⁾の研究でもモデルとなる看護師との出会いや看護できた実感を持てたことで学生の看護師として働きたいという思いが高まる事が明らかに

されている。さらに自分で工夫して生活を送り、精神面をコントロールすることにより、気持ちや生活に余裕が生まれ、より実習に集中して取り組むことができ、実習中に効果的に有益な効果を得ることができるようになるのだと考えられる。

4. 学生の心の準備方法の示唆

看護学生が有意義に実習を行い、有益な効果を十分に得ることができるようにするための心の準備方法として、対人関係に大きな不安を抱きすぎず、患者や看護師、教員は温かく学生を受け入れてくれるということ、実習を行う上で生じる精神的な苦痛や疑問は一人で抱え込まず、学生同士で共有したり、看護師や教員に相談し指導をもらうなど、他者の力を借りることが重要であるということを実習前から理解すると良い。

引用文献

- 1) 坂本弘子、福森利智子、木村紀美：看護大学生における臨地実習が心理的well-beingに及ぼす影響、八戸学院大学紀要、57号、p173-183、2018
- 2) グレック美鈴、麻原きよみ、横山美江：よくわかる 質的研究の進め方・まとめ方、医歯薬出版株式会社、11-70、初版、2007
- 3) 櫻井美奈、中原るり子、岸田泰子、佐藤京子：新設A看護系大学生の領域別実習前における心理社会的状況の検討、雑誌名共立女子大学看護学雑誌、巻3、38-48、2016-03
- 4) 小沢久美子、久保直子、下川原久子、日當ひとみ、古館美喜子、佐々木真湖、切明美保子、川野恵智子、蛭田由美：基礎看護学実習における看護学生のコミュニケーションスキルと対人不安に関する研究、八戸学院大学紀要 第59号
- 5) 村岡祐介、館山光子、井澤美樹子、土屋陽子：成人看護学実習における学生の満足度と教員の関わりや実習目標の理解度・到達度の関係性の検討、弘前学院大学看護紀要、第15巻、1-10、2020
- 6) 土井智生、清水安子、瀬戸奈津子、福祿恵子：看護学生の看護師志望への臨地実習の影響について、大阪大学看護学雑誌、20(1) P.19-P.25、2014-03

対象文献

1. 石川恵子、内海桃絵：看護学生における臨地実習のモチベーション、健康科学；京都大学大学院医学研究科人間健康科学系先行紀要、11巻、p11-16、2016
2. 片倉裕子：看護学生の自己効力感を高める要因に関する研究 臨地実習体験に焦点を当てた半構造化面接による分析を通して、北海道児童青年精神保健学会誌、31号、P36-46、2017
3. 佐藤美紀子、森山美香、矢田昭子、秋鹿都子：成人看護学実習(急性期)における看護学生の成功体験、島根大学医学部紀要、35巻、P39-46、2012
4. 齋藤雪絵、村中陽子：臨地実習における看護学生のメタ認知的活動が発達するプロセス、日本看護医療学会雑誌、21巻1号、p14-22、2019
5. 清水登紀子、樹本朋子、影本妙子：学生担当看護師の有無による実習指導効果の比較、川崎医療短期大学紀要、38号、p17-23、2018
6. 隅田千絵、細田 泰子、星 和美：看護系大学生の臨地実習におけるレジリエンスの構成要素、日本看護研究学会雑誌、36巻2号、P59-67、2013

表1 実習が学生へもたらす有益な効果の要因

カテゴリー	サブカテゴリー (コード数)	
患者や家族との関わり	自分の行動を工夫することで患者の役に立った (10)	患者・家族からの感謝の言葉をもらった (5)
	看護対象者の違いや変化、手術前後の観察の変化に学ぶ楽しさがあった (3)	患者が心を開いてくれた (3)
	患者さんと関わることが楽しかった (2)	患者の回復する様子が嬉しかった (1)
看護師や指導者、教員からの学生を思う実践的な指導	看護師や指導者、教員が具体的に実践的な指導をしてくれた (28)	看護師や指導者、教員から学生を認める言葉があった (13)
	看護師・指導者・教員が時に厳しくも、学生を思う指導をしてくれた (16)	看護師の行動や姿、技が参考・手本となった (7)
	看護師が学生に対して温かみをもって接してくれた (5)	看護師が学生の主体性を尊重した指導をしてくれた (3)
自己成長や意欲の高まりの実感	臨床の現場を見たことで覚悟や気合が入りモチベーションが上がった (5)	実習の学びにおいて自己の成長に繋がったことを実感した (7)
	自分で工夫することでモチベーションアップした (3)	看護師の仕事にやりがいや可能性を感じた (3)
	以前出来なかったことができるようになった (3)	自分に自信が持てた (3)
自分自身のコントロールや学生同士によるお互いを高め合う刺激	学生同士でモチベーションを高め合うことができた (3)	
	実習において自分の生活の工夫をしメンタル面のコントロールをした (1)	